

女性技術者座談会

建築が私の生きる道!



和田 郁子さん(鉄建建設)

中村 茉莉さん(西松建設)

池田 由華さん(大成建設)

なぜ建築の世界を志したのですか？

池田 建築関係の仕事をしていた父の影響だと思っています。小中学生の頃、難しい建築構造の話をして、よく分からないながらも「すごい」と尊敬したことを覚えています。私が大学で建築を専攻したいと伝えた時は、「いいんじゃないか」といった程度の反応でしたが、内心は喜んでくれたのかもしれない。実は大学に入っても建設業のことをほとんど知らず過ごしていました。就職活動の時期になって父からゼネコンのことを教えてもらい、就職先を選びました。



池田 由華(いけはたゆか)さん

大成建設
技術センター建築技術研究所
防災研究室副主任研究員
工学部建築工学科卒

中村 私は母が小さな建築リフォーム会社を経営しているので、その影響を強く受けていると思います。中学や高校に通っていた頃、母と一緒に現場へ行き、お手伝い感覚で内装のクロスをはがしたりしていました。建築を選んだというよりは、この道しか考えられなかったというのが本音です。就職先を決める時は、母より大きいものを建てて喜んでもらうのと同じように、いろんな人が笑顔になる建物をつくりたいと考え、ゼネコンに就職しました。

和田 私はお2人とは違い、周りに建築関係者はいませんでした。でも、小さい頃から絵を描いたり、建物を見たりの好きだったので、大学に入ってから建築分野

仕事でのやりがいを、どのような時に感じますか？

中村 施工管理の仕事をしているので、やっぱり竣工を迎えた時でしょうね。私は携わった現場が竣工するのをまだ経験していないので、本当に感じられるのはこれからだと思っています。でも、現場に出ているこの1年半ほどの間にもやりがいを感ぜられたことはたくさんあります。私のようなまだ一人前になっていない施工管理者が、職人さんから「ありがとう」と言ってもらえることはほとんどありません。ですが、「あなたの頼みなら聞くよ」と言っていたら、1人の技術者として認められたようにとても嬉しいと思います。現場で外部足場が解体される時なども、これまでにやってきたことが見えるのやりがいを感じられます。ですから、現場が竣工する時はもっと大きな感動を味わえるはずなので、今から楽しみにしています。



中村 茉莉(なかむらり)さん

西松建設
関東建築支社
北品川再開発出張所
システム工学部
環境システム学科卒

和田 入社してから1年ごとに配属先が変わっているの

ゼネコンでは多くの女性建築技術者が設計や施工、研究開発などの分野で活躍しています。座談会企画では、そうした第一線で働く3人に集まってもらいました。それぞれに担当業務は違いますが、仕事やプライベートに関する本音トークが交わされ、座談会は大いに盛り上がりました。

会社でどのような仕事をしているのですか？

池田 私は1994年に入社以来、技術センターに勤務しています。ビルや駅、トンネルで火災が起きた際、安全に避難するための技術開発をしています。避難ルートのシミュレーションや必要に応じて可燃物や部材の燃焼実験なども行っています。

中村 入社したのは2012年4月です。その年の7月、新人研修を受けてから配属されたのが、今働いている再開発事業の建築現場です。ここで施工管理の仕事をしています。現場は躯体工事が中間階まで進み、低層階から内装工事も始まるなど真つ盛りといった状況です。

和田 私も入社して2012年の4月です。建築の構造設計職として採用されたのですが、新人技術者に施工を経験させるといふ会社の教育方針により、1年目はマンションの建築現場に施工管理職として配属されました。昨年4月、本社設計部に異動し、今度は意匠設計を1年間経験させてもらいました。そして今年4月からは構造設計を担当しています。

まだ仕事でのやりがいを感ぜるのは難しいのですが、1年目のマンションを建てる現場では竣工まで経験することができました。竣工の日、それぞれの部屋に電気があったのを見た時がとても感動的で印象に残っています。各部屋に住まれる方々の好みで、電気の色はそれぞれに違います。ついこの間までは検査のために同じ色の電気をつけていたので、異なる光の色を見て「ああ、現場が終わったんだな」と実感しました。でも、あつという間に建物の引き渡しが終わると、その時点から私たちはマンションの中には入れません。外から人影を見ることができず、少しさみしい思いがしたのも覚えています。

池田 私は建物の設計段階で避難安全性などを評価するのが仕事のため、一つの建物に竣工まで携わることほとんどありません。一番に感動したのは、それまで火災時の避難安全評価で考慮されていなかった対策の効果について、実際に調査・実験や解析も行い、その結果がプロジェクトの設計に反映されたことです。建物への適用に必要な評定は、通常なら1〜2カ月で終わるところが半年以上もかかったのですが、意匠、設備、構造の設計担当者が一体となって協力してくれました。今でもこれには感謝しています。それと年に数回は国内外の学会などの場で研究成果を発表しています。そうした研究発表もやりがいを感ぜる時です。



和田 郁子(わたいくこ)さん

鉄建建設
建築本部設計部
構造設計グループ
大学院理工学研究科
建築学専攻修了

仕事で影響を受けた人を教えてください

和田 プライベートの話にもなってしまうのですが、私は夫が一番大きいと思っています。大学で同じ研究室の二つ上の先輩ですから、付き合いはだいぶ長くなりました。私と同じ構造設計職の道に進み、設計事務所勤めていました。同じ職種でもゼネコンと設計事務所では違う点が多いですね。私は入社して現場に1年、夫は事務所の中の仕事でしたので、同じ職種なのにまったく違う環境にあり、最初の1年は大きなギャップを感じていました。そんな時期に一番応援してくれたのは夫でした。私は途中で投げ出したりするのがすごく嫌いなんです。そういう性格の私をうまく前に進めるようアドバイスしてくれるのでとてもありがたいです。お互い設計者なので頑固ですし笑、仕事に関しては考え方がまったく違うところもあります。



海外の学会での論文発表

池田さんは入社後、総合職へと着実にキャリアアップし、博士号も取得している。趣味はリラックス&ストレス発散を目的にした旅行。到着してすぐに寝てしまうこともあり、「もったいないとよく言われます」という。



ハワイ島への旅行で

でも、これからの仕事でも良い意味で刺激し合っていけたらと思っています。

中村 私はやはり母です。影響を受けたというよりは、私にとって存在が大きいと言った方が良いかもしれません。母は私がゼネコンに就職しても、現場に出てほしくはなかったようです。女の子の仕事ではない、と心配していたのだと思います。そんな母ですが、現場に忘れ物を届けてくれた時、ヘルメットを被り、作業着の上に防寒着を着ていた私の姿を初めて見たんです。おまけにその日はコンクリートの打設作業があったので、私の作業着は汚れていました。それまでも現場で働く娘を心配していたので悲しむかなと思っていたら、後で「格好良かった」とメールをくれたんです。その時、初めて認めてくれたのだと感じました。男性ばかりの現場で働くことに多少のコンプレックスはあります。ですが、一番に目標としている母に認められたことで、それまで以上に頑張っていることと覚悟を決めました。



デスクでの執務状況

和田さんはスポーツとは縁がないままに社会人となったが、今年2月の東京マラソンに挑戦し、見事に完走。入社1年目に配属された建築現場での仕事は、人とのつながりや忍耐力など「得られたものは多かった」と振り返る。



東京マラソンで完走して

働き方などのような工夫をされていますか？

中村 私は常にメリハリを意識しています。最近結婚したので、特にそう強く思うようにしています。もちろん仕事が終わらない時は帰れません。でも、仕事をする、話をする、飲みに行くなら行くなどメリハリをもっと付け、交替で休める時にはしっかりと休むことも大事だと思います。主人は元同業者で、私が仕事で遅く帰ってくる

ことを理解してくれていますが、それに甘え過ぎてはいけなさと考えています。

和田 大学の研究室にいたころは夜中まで研究しているのが普通で、自分が好きなことでしたので苦でもありませんでした。しかし、会社に入ってから、自分があることだけでお金が発生しているのだと実感させられました。会社は1人の社員に1日これくらいのお金をかけているのだから、効率的に仕事をしよう上司からも言われています。社会人としてはまだ駆け出しですが、上司が何を求めているのかを理解し、できるだけ効率良く仕事を進められるようになりたいと思っています。

池田 会社では毎週水曜をノー残業デーとし、定時で帰ることを促す取り組みをしています。しかし、研究の成果報告書をまとめる時や学会での発表が迫った時は、なかなか定時に帰宅というわけにはいきません。また、そのような時期は家に帰っても研究で頭が一杯になってしまいます。どうしても仕事の波はありますので、うまく時間管理して効率化を図ったり、一段落した後は旅行で気分転換するなど、メリハリをつけた働き方をしています。

これからの目標を教えてください

池田 今まで通りこつこつと一つひとつの業務を確実にやり遂げ、社内外で頼りにされる研究者になりたいです。これから本格的な高齢社会を迎えると、緊急時であっても高齢者が人の助けを得ることが難しくなってくると思います。自分たちが歳をとってからも、困らないような環境づくりに活かせる技術開発ができたらと思っています。



現場での監督業務

スノーボード、テニス、フットサル、野球観戦など多趣味の中村さん。性格はいたって前向きで、職場でも持ち前の明るさとバイタリティーを発揮している。プライベートでは「料理のレパートリーを増やす」のが当面の目標という。時には旅行も。



関西への旅行で

中村 目標は一人前の技術者になることです。私はまだなれていません。建築は奥が深く、現場に出て1年半程度で分かる世界ではありません。例えば現場には、開けなければいけない1mと、開けてはいけない1mがあります。そういったことを理解し、上司の言葉を伝えるだけでなく、自分の知識で話せるような技術者に早くなりたいです。

和田 私は新しいことにどんどん挑戦していきたいです。現場への配属が決まった時は、私にできるかとても不安でした。でも、できないことってないんじゃないかなと、現場を1年経験した今はそう思っています。体力、精神力でも男の人にはかなわないと思うこともあります。特に気負う必要はないと考えています。

学生の皆さんにアドバイスをお願いします

池田 私は会社に入ってみて、いろいろな専門分野の人たちが関わって一つの建物ができているのだということが分かり、すごく素晴らしいと思いました。学生さんにはいろんなものを見聞きして好きなことを見つけて努力してほしいと思います。自分の好きなことであれば、つらい作業や苦勞も、後から振り返ると、良い思い出になります。好きなことを見つけて、それを将来の職業にできれば幸いです。

中村 どの世界でも一緒ですが、建築の雑誌を読んでも良いことしか書いてありません。私もそれを見て、建築は格好良いと思ってゼネコンに入った1人ですが、実際には良いことばかりではなく、体力的、精神的に大変なこともたくさんあります。上司や先輩からしかられることもあります。可愛がっていただけの人もいますが、私を1人の現場監督だと思ってくれている人は、それだけ指導も厳しくなります。一人前の技術者になるには当たり前前のことです。学生の皆さんには、卒業して約40年にもわたって働く道を選ぶのですから、駄目なら辞めてもいいなんて考えを持たずに、就職活動を頑張ってくださいと思います。

和田 未来ある学生さんには、いろいろなことに挑戦してほしいですね。自分に合うか合わないかは、やってみてから判断するようにしてください。先日、私は東京マラソンに出場して完走できました。学生時代から運動部に入った経験のない私にはマラソンなど違う世界のことと考えていました。でも、応募して当選したマラソンに挑戦し、完走できたんです。皆さんにもできないことなんてないですよ。